

氏名	磯 辺 み ど り
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4341 号
学位授与の日付	平成 22 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Correlation of high and decreased NY-ESO-1 immunity to spontaneous regression and subsequent recurrence in a lung cancer patient (肺癌自然退縮および再発と NY-ESO-1 免疫応答)
論文審査委員	教授 三好 新一郎 教授 谷本 光音 准教授 大内田 守

学位論文内容の要旨

NY-ESO-1 抗原は、食道癌患者血清を用い、癌組織由来 cDNA ライブラリーをスクリーニング (SEREX 法) して見出されたがん精巢 (CT) 抗原である。NY-ESO-1 抗原は、正常組織では精巣に局限して発現し癌では、様々な種類の癌に発現している。NY-ESO-1 抗原の特徴は強い免疫原性である。NY-ESO-1 を発現している癌患者では、しばしば抗体反応がみられ、それらの患者では CD4、CD8T 細胞の免疫応答も確認されている。このような強い免疫原性から、NY-ESO-1 抗原は、癌ワクチンとして有望な標的分子であると考えられる。我々は、最近、NY-ESO-1 を発現している肺癌患者の胸膜転移の自然退縮を認めた。患者は NY-ESO-1 抗原に対する免疫反応を示していた。血清中の IgG 抗体反応、T 細胞免疫応答は、胸膜転移の自然退縮の時点で強い反応が観察されたが、3 年後の腫瘍の再発時には、反応は著しく減少していた。一方、CD25 強陽性 Foxp3 陽性細胞は増加していた。これらのことから、腫瘍の再発は、制御性 T 細胞の増加による抗 NY-ESO-1 免疫応答の低下が関与していると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、NY-ESO-1 発現肺癌症例にみられた自然退縮とその後の再発における NY-ESO-1 特異的免疫応答の変化を明らかにしたものである。肺癌患者の胸膜転移の自然退縮には強い IgG 抗体反応と CD4、CD8T 細胞の免疫反応を確認した。また、3 年後の再発時には、これらは著しく低下し、Foxp3 陽性 CD25 強陽性 Treg の増加を証明した。これらの知見は、肺癌患者に置ける自然退縮とその後の再発における免疫応答のメカニズムについて重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。